

菌類（変形菌類を含む）の概要

菌類専門部会

今回、レッドデータブックの改訂版において、新たに菌類と変形菌類を加えることになった。

菌類は、菌界に分類され、動物界や植物界と共に多細胞性の真核生物である。一般には、カビ、キノコなどと呼ばれている。キノコという言葉は、菌類の特定の分類群を表す言葉ではなく、比較的大型の子実体そのものを指す一般名である。その特徴は、肉眼で同定できるものからルーペや顕微鏡を使って同定するものまでである。キノコの種類は国内で6,000種以上であると推察されている。そのうち、学术论文に記載されているのは2,000種程度である。一方、変形菌類は近年まで菌類の中の一群とされてきたが、現在では、アメーバ動物類（Amoebozoa）に属する仲間とされている。子実体は1~2 mm程度のものが多い微小な生物で、同定にはルーペや顕微鏡が必要である。世界では1,000種程度で、そのうち日本では600種程度見つかった。

菌類や変形菌類の生存は、植生や地形、気候などの自然環境と密接に関連している。和歌山県では北部と南部で自然環境の相違が見られる。北部地域は、一部が瀬戸内式気候で比較的降水量が少なく、主にアカマツ・コナラなどが多く、一部の人手の入らなくなった里山林のシイ林化が進んでいる。南部地域は、温暖多雨な気候であり、主にシイ・カシ類の常緑広葉樹林が広く見られる。ただし、標高の高い山頂付近や渓谷は夏でも涼しくシャクナゲなども見られる。また、特異な植物分布も見られ、海岸性のタブノキやウバメガシが海岸から奥地の山々にまで生育している。こうした植生の違いによって、菌類や変形菌類の種の構成も変わってくる。

今回、レッドデータブックに菌類および変形菌類を追加することに合わせて、和歌山県に関する過去の文献調査を行ったところ、菌類（いわゆるキノコ）や変形菌類に関する文献が非常に少ないことが明らかとなった。

キノコの記録は、古くは江戸時代末期に活躍した紀州藩の草本学者、畔田翠山（くろだすいざん）が著した『熊野物産初志』や、明治から昭和にかけて活躍した博物学者、南方熊楠の菌誌図譜が残されている。それら以外に、近畿大学農学部紀要や市町村史などに地域を限定して記録されている。一方、和歌山県内の変形菌類の発生記録については、南方熊楠が『植物研究雑誌』に1908年や1913年、1915年、1927年に和歌山県産を含む日本産変形菌類のリストを発表した論文に加え、小野新平が神島の変形菌相を1988年に発表した論文などわずかである。このように文献が少なく、和歌山県の菌類および変形菌相はまだ詳しく明らかになっていない状況である。

このような状況のなか、和歌山県内を中心に活動している和歌山菌類研究会（木の子 Club 和歌山）は、1988年頃から現在に至る調査記録を有し、加えて調査不足を補うべく、新たな調査やキノコ愛好家の個人的記録の聞き取り調査などを行った。その結果、今までに同定された菌類は500種程度で、変形菌類は250種程度であった。しかし、未同定のものが数多くあり、今後さらに種数が増加するのは確実である。

菌類および変形菌類の絶滅危惧種の選定には、『和歌山県レッドデータブック』のカテゴリーの定義を参考にした。その結果、菌類では絶滅危惧I類（CR + EN）3種、絶滅危惧II類（VU）10種、準絶滅危惧（NT）18種、情報不足（DD）35種を選定した。変形菌類では情報不足（DD）2種を選定した。

選定した内で、絶滅危惧I類（CR + EN）として記載しているスナジクズタケ（*Psathyrella ammophila* (Durieu & Lév.) P. D. Orton）は環境の変化が大きく不安定な砂浜海岸に依存する種で、1990年に海南市で確認されて以来、県内では発生を確認していない。今では発生場

所も護岸工事で消滅しており、同地点での再発見は不可能となっている。今後、他の場所での発見を期待している。

また、絶滅危惧II類(VU)として記載しているシイノトモシビタケ(*Mycena lux-coeli* Corner)は照葉樹林の特にシイの枯れ枝や倒木に発生する発光性のキノコで、1950年に八丈島で羽根田弥太によって発見され、E. J. H. Cornerが1954年に新種として発表した。長い間、八丈島特産種と考えられていたが、1995年に本県のすさみ町で、八丈島以外で初めて発生が確認された。その後、近畿、四国、九州・沖縄地方等で確認されているが、全国的にみても発生地が限定されている。県内でも紀南地方に点在しているに過ぎない。発生地の環境変化、人為的干渉も加わり、発見当時から減少傾向が続いていたが、特にここ数年激減している。

変形菌類は今後さらに調査が進むと記載種が増加すると考えられるが、今回は2種を情報不足(DD)とした。

1種はアオウツボホコリ(*Arcyria glauca* Lister ex G. Lister)で、1911年にA. H. Listerが新種として発表した種で、南方熊楠が田辺市で発見して以来、県内では数箇所ではしか発見されていない。もう1種はミナカタホコリ(*Minakatella longifila* G. Lister)で、1921年にG. Listerが新種として発表した。南方熊楠が田辺市で発見してから100年経っているが、県内では再発見されていない。しかし他県では発見例があるので、今後、県内で再発見が期待される。2種とも和歌山県がタイプ産地になっている。

自然環境が多様で、調査の必要な地点も多く存在し、かつ調査員が少ないため、県内をくまなく定期的に調査するのは困難である。その上、キノコや変形菌の子実体は短命なため、見逃してしまうことが多々ある。よって、調査を粘り強く継続することが必要であると考えられる。

近年、生物の分類に形態形質だけでなく、DNA解析に基づく系統分類が取り入れられ、菌類および変形菌類の分類体系も変わりつつある。よって、将来学名が変更になることもありうるが、最新の知見に基づいた学名を掲載する。

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

スナジクズタケ
マイタケ
ケシボウズタケ

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

ホンシメジ
ブナシメジ
バカマツタケ
ヌメリツバタケ
シイノトモシビタケ
コウボウフデ
キヌガサタケ
セミタケ
オオセミタケ
ヌメリタンポタケ

●準絶滅危惧（NT）

マツタケ
ニセマツタケ
モミタケ
オソムキタケ
ムキタケ
ウスキブナノミタケ
シロテングタケ
ナメコ
クリフウセンタケ
アケボノアワタケ
アヤメイグチ
ショウロ
アカモミタケ
トキイロラッパタケ
コウタケ
クロカワ

ブクリョウ
クモタケ

●情報不足（DD）

フユヤマタケ
アオイヌシメジ
ドクササコ
キヒダマツシメジ
シロツルタケ
キタマゴタケ
ニオイドクツルタケ
コトヒラシロテングタケ
ヒョウモンウラベニガサ
マントカラカサタケ
スジチャダイゴケ
ヒメヒガサヒトヨタケ
カワリコシワツバタケ
ムレオオフウセンタケ
オオワライタケ
ソライロタケ
クギタケ
アメリカウラベニイロガワリ
サザナミイグチ
ムラサキヤマドリタケ
オオヤシャイグチ
セイタカイグチ
ヌメリアシナガイグチ
ヤシャイグチ
トガサワラショウロ
ルリハツタケ
カゴタケ
アカイカタケ
イカタケ
ヒメスッポントケ

ミミブサタケ
アミガサタケ
ウツロイモタケ
クルミタケ

カエンタケ
ミナカタホコリ
アオウツボホコリ

スナジクズタケ *Psathyrella ammophila* (Durieu & Lév.) P. D. Orton **ハラタケ目** **ナヨタケ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

環境変化が大きく不安定な砂浜海岸に依存する種で、和歌山県内では1990年に発生が確認されている。その後、護岸工事等によって発生場所の砂浜海岸は消滅し、本種の発生が見られなくなった。

海南市で発生が確認されている。

選定理由 傘は径2~4 cm。半球形~釣鐘形で表面は灰褐色~赤褐色、中央部はややくぼむ。ひだは湾入上生、灰色、のちに灰褐色~黒色。柄は管状~円筒状で下方に向かって太くなり、根元でやや膨らみ、白色のち明るい黒褐色。1 / 2~1 / 3は砂地に埋まる。単生または数本束生する。

初夏から秋に、海浜植物が生育する場所で、埋もれている植物遺体や木片から発生する。砂浜海岸の汀線近くにも発生することが知られている。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 竹橋誠司・星野 保・糟谷大河. 2012. 石狩砂丘と砂浜のきのこ. 216pp. NPO 法人 北方菌類フォーラム, 札幌.

マイタケ *Grifola frondosa* (Dicks.) Gray **タマチョレイ目** **トンビマイタケ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

本種は冷涼な気候を好むため、気候変動などにより生育に適した場所が減少している。和歌山県内では1箇所、田辺市で発生が確認されている。宿主であるミズナラ林の伐採や衰退も一因と考えられる。

選定理由 子実体は無数に分岐する柄と、柄の先端に形成される無数の傘の集団からなり、全体の直径は30 cmにも達する。傘は扇形~へら形~半円形など、幅2~5 cm、厚さ2~4 mmほどで、表面はほとんど黒~黒褐色、しだいに色は淡くなって灰褐色~白色となる。放射状の繊維紋とやや不鮮明な環紋を示す。下面の管口は白色、長さ1~3 mm、柄に垂生、孔の口は円形~不正円形、1~3個/mm。



9月中旬頃に、主にミズナラの大木の根際に発生するが、クリ、シイ、タブノキに発生することもある。美味なキノコで物語などにも登場する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 315 pp. 保育社, 大阪. 写真: 菌類専門部会撮影

ケシボウズタケ *Tulostoma brumale* Pers. ハラタケ目 ケシボウズタケ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 国 情報不足 (DD)

選定理由

環境変化が大きく不安定な砂浜海岸に依存する種で、和歌山県内では1箇所、和歌山市で発生が確認されている。砂浜の減少や護岸工事などで急速に生育場所が減少し、唯一の生育地も著しく悪化している。

子実体は径1~1.5 cm。幼菌の間は地中性で、球形または類球形で最初は白色、のちに褐色になる。成熟すると頭部は地表に出る。殻外皮は剥落し、頭部の下や柄の基部に残る。内皮は成熟すると孔口は乳頭状に突出する。柄部は赤褐色から暗茶褐色、肉は白色で中空か中実。頭部は暗褐色の粉状胞子塊となる。

夏から秋に、砂浜海岸でコウボウシバ、ヒゲスゲなどが生育する植生に発生する。海岸植生がある程度良好に保たれている場所に限定して発生している。

海浜に依存するキノコは和歌山県内では、本種とスナジクズタケの2種が確認されている。
執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (Ⅱ). 315 pp. 保育社, 大阪.
写真: 菌類専門部会撮影

ホンシメジ *Lyophyllum shimeji* (Kawam.) Hongo ハラタケ目 シメジ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 旧県 2012 国 -

選定理由

里山に見られるキノコで、アカマツ林やクヌギ・コナラなどの広葉樹林の放置による下草の繁茂や土壌の富栄養化によって生育に適した場所が減少している。また過去に発生した場所も生育が確認できなくなっている。

岩出市、田辺市、高野町で発生が確認されている。傘は径2~8 cm。半球形~まんじゅう形、のちに平らになる。表面はねずみ色から淡灰褐色になる。縁部は内側に巻く。ひだは湾生または垂生する。通常柄の基部は徳利状に膨らむが、成長すると上下同大になる。

10月中旬頃に、アカマツ交じりの雑木林などで比較的腐植土の少ない場所に発生する。
執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (Ⅰ). 325 pp. 保育社, 大阪.
2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639 pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

ブナシメジ *Hypsizygus marmoreus* (Peck) H. E. Bigelow **ハラタケ目 シメジ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

選定理由

和歌山県内では標高の高い一部の地域でしか発生を確認できない。

生育地では、気候の変動や伐採によるブナ林の衰退が進み、生育環境が明らかに悪化しつつある。

田辺市、高野町、日高川町で確認されている。

傘は径 4.5~15 cm。円形または一方に片寄った不正形、表面は類白色~帯褐クリーム色、周辺部は淡色、しばしば不明瞭なやや濃い色の大理石模様を表す。ひだは類白色、柄に丸く直生し、密~やや疎。柄は長さ 3~10 cm、太さ 0.6~2 cm、中心生または偏心生で曲がるが多く、上下同大または下方が紡錘形となり、傘とほぼ同色か、ほとんど白色。

秋に、ブナその他の広葉樹の枯れ木に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献**
 ・**情報** 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325 pp. 保育社, 大阪.
 写真: 菌類専門部会撮影

バカマツタケ *Tricholoma bakamatsutake* Hongo **ハラタケ目 キシメジ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	---	---	------------

選定理由

和歌山県内では今のところ海南市、田辺市、有田川町の数箇所ではしか発生が確認されていない。里山のウバメガシ、コナラなどの広葉樹林の放置により生育環境が悪化し、発生数が減少している。

傘は径 4~10 cm。はじめ球状、のちにまんじゅう形から平らになり、ついには縁部が反り返る。中央部は褐色、繊維状。柄も褐色、繊維状や鱗片状で上下同大、基部は細まらない。マツタケによく似ているが、より小型で香りがより強い。肉質はマツタケよりも多少柔らかい。

夏から秋に、ウバメガシ、コナラなどの広葉樹の林地に菌輪を作って発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献**
 ・**情報** 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325 pp. 保育社, 大阪.
 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639 pp. 山と溪谷社, 東京.
 3 工藤伸一. 2017. 青森県産きのこ図鑑. 535pp. アクセス 21 出版, 青森.
 写真: 菌類専門部会撮影

ヌメリツバタケ *Mucidula mucida* (Schrad.) Pat. **ハラタケ目 タマバリタケ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

選定理由

和歌山県内では、主にブナ林に発生するが、伐採による減少や衰退などにより発生数が大幅に減少している。

田辺市、高野町で発生が確認されている。

傘は径 3~8 cm。淡い灰色を帯びた褐色から白色、強い粘性。ひだは幅広く、白色。柄は細く、白色、上部につばを有する。

夏から秋に、広葉樹 (和歌山県では特にブナ) の枯れ木に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

シイノトモシビタケ *Mycena lux-coeli* Corner **ハラタケ目 クヌギタケ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

選定理由

和歌山県内の発生地はスダジイを主とした海岸部の照葉樹林帯に複数あるが、どれも規模が小さい。また、森林の遷移などによる発生地の環境変化により、発生数が明らかに減少している。

すさみ町、串本町、那智勝浦町で発生が確認されている。

傘は径8~15 mm。円錐形~丸山形で溝状の条線がある。表面はオリーブ色~黄褐色。ひだは直生~わずかに垂生し、淡橙灰色で縁部は黄褐色に縁どられる。柄は円柱形で上下同大、基部に白色毛がある。表面は平滑で、淡橙褐色。子実体全体に強い発光性がある。

梅雨から初秋にかけて、スダジイが優占する照葉樹林内の朽木や落枝上に群生または散生する。

日本固有種で八丈島で発見されたが、1995年に本県でも見つかった。その後、沖縄県、高知県、鹿児島県、宮崎県、大分県、長崎県、兵庫県、三重県で発生が確認されている。

近年、本種の生育地が知られるようになり、そのため人為的攪乱・採取圧などにより生育環境がさらに悪化している。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報

- 伊藤誠哉. 1959. 日本菌類誌第2巻 第5号. 658pp. 養賢堂, 東京.
- 黒木秀一・服部真由美・服部 力. 2004. 宮崎県産「シイノトモシビタケ」. 宮崎県総合博物館研究紀要, 25: 26-24.
- 幼菌の会. 2001. きのこ図鑑. 334pp. 家の光協会, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

コウボウフデ *Pseudotulostoma japonicum* (Kawam. ex Otani) I. Asai, H. Sato & Nara **エウロチウム目 ツチダンゴ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)
--------	-------------	----	------	---	---	-----------

選定理由

発生地が局限されている上に、発生密度が低いため、希少である。また、里山のウバメガシ林の放置などにより生育に適した場所が減少している。

海南市、田辺市で発生が確認されている。

幼菌は地中性で長径3~4 cm、短径2~2.5 cmで長卵形、成熟すると裂開し、柄部が伸長して長頭状またはこん棒状の頭部をもちあげ、高さ5~12 cmとなる。頭部は径1~3 cm、しだいに細まり柄となる。全体的にねずみ色~灰褐色ときに緑青色や黄白色が混じる。頭部の上半分の殻皮は不規則な破片となって剥離し、青色を帯びた灰色の古綿状の孢子塊を露出する。柄部は円筒形で繊維状の縦条を表し、中実、根もとに黄褐色の袋がある。

秋に、ブナ科の広葉樹林 (ウバメガシ、コナラ、クヌギ) の地上に単生または群生する。和歌山県内では、特にウバメガシ林に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報

- 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (Ⅱ). 315 pp. 保育社, 大阪.
写真: 菌類専門部会撮影

キノガサタケ *Phallus indusiatus* (Vent.) Dasy. スッポンタケ目 スッポンタケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

選定理由

竹林内の地上に発生するが、発生地は限られている。更に竹林の放置等により、発生場所の悪化が進み、発生数が減少している。

和歌山市、橋本市、九度山町、高野町で発生が確認されている。

幼菌は白色の卵形、径3~4 cmほど。成熟すると裂開し、白色の柄と菌膜（マント）を伸ばし、高さ15~18 cmになり、柄部は2~3 cmの太さになる。傘の表面は白色で網目状の隆起があり、暗緑色のグレバと呼ばれる粘液化した孢子塊が強い臭気を放ち、頂端は白色環状で孔口を開く。柄部は白色円筒形、中空で多数の小孔がある。菌網は白色の繊細な網目状となる。



梅雨期と秋の年2回、竹林内に群生または散生する。

本種は1分間に2~4 mmもの速さで成長し、わずか数時間で幼菌から成菌に成長する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

- 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 315 pp. 保育社, 大阪.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 写真：菌類専門部会撮影

セミタケ *Ophiocordyceps sobolifera* (Hill ex Watson) G. H. Sung, J. M. Sung, Hywel-Jones & Spatafora ニクザキン目 オフィオコルジケプス科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

選定理由

発生場所が局所的である。また、ニイニイゼミの幼虫に限定して寄生し発生するため、宿主の発生数の減少に合わせて本種も減少している。1995年頃から減少が著しく、過去の発生場所も現在では消滅している。

和歌山市、すさみ町で発生が確認されている。

子実体は地上部の高さ2~8 cm、頭部と柄からなる。こん棒状で地中のニイニイゼミの幼虫の頭部から発生する。頭部は円筒形で細点状、淡褐色か淡橙褐色。柄は円柱状で頭部よりも淡色。ときに基部にコブ状の塊を生じる。肉は白色で硬い。栃木県以南に分布する。



5月から8月に、人家の庭や寺社・公園などの比較的手入れがされている場所や、里山の林内に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

- 1 池田良幸. 2013. 新版 北陸のきのこ図鑑. 396pp. 橋本確文堂, 金沢.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 - 3 清水大典. 1997. 冬虫夏草図鑑. 446pp. 家の光協会, 東京.
 - 4 幼菌の会. 2001. きのこ図鑑. 334pp. 家の光協会, 東京.
- 写真：菌類専門部会撮影

オオセミタケ	<i>Ophiocordyceps heteropoda</i> (Kobayasi) G. H. Sung, J. M. Sung, Hywel-Jones & Spatafora	ニクザキン目	オフィオコルジケプス科
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012
			—
		国	—

本種は全国的に分布しているが、生育場所が局所的である。また、宿主であるアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシなどの幼虫に寄生して発生するため、宿主の発生数の減少に合わせて本種の発生も減少している。その上、過去の発生場所が現在では消滅している。



紀の川市、岩出市で発生が確認されている。

選定理由

子実体は地上部の高さ 2~4 cm、頭部と柄からなる。地中のアブラゼミなどの幼虫から発生する。頭部は卵形~楕円形で細点状、淡褐色~暗褐色。柄は下方が太いもの、細いもの、屈曲するものがあり、淡黄褐色。肉は白色で硬い。地中の宿主より根状の菌糸束が地表に向けて伸びる。

早春に、寺社や公園などの比較的手入れがされて下草が少なく、湿度が高い場所に発生する傾向がある。

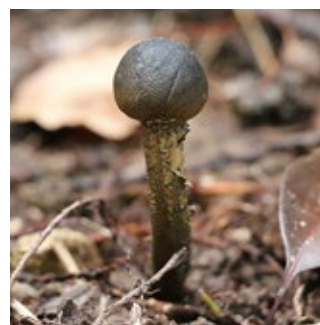
執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報

- 1 池田良幸. 2013. 新版 北陸のきのこ図鑑. 396pp. 橋本確文堂, 金沢.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 - 3 清水大典. 1997. 冬虫夏草図鑑. 446pp. 家の光協会, 大阪.
- 写真: 菌類専門部会撮影

ヌメリタンポタケ	<i>Tolypocladium longisegmentum</i> (Ginns) Quandt, Kepler & Spatafora	ニクザキン目	オフィオコルジケプス科
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012
			—
		国	—

里山林の放置により、ブナ科の木に菌根をつくるツチダンゴが減少し、それを唯一の宿主とする本種の減少につながっている。和歌山県内での発生確認は岩出市と紀の川市の2箇所であるが、生育適地は悪化しつつある。



選定理由

子座は球形~類球形で茶褐色~黒褐色。粘性を持ち、光沢がある。被子器は埋生で、子座の表面でやや隆起して見える。黄色の柄はツチダンゴ類から直出し、太くて丈夫で、黒点を密布することが多い。

ツチダンゴ類に寄生し、初春から秋に、広葉樹林内地上に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報

- 1 本郷次雄. 2001. 幼菌の会 カラー版 きのこ図鑑. 335pp. 社団法人 家の光協会, 東京.
- 写真: 菌類専門部会撮影

菌類

マツタケ <i>Tricholoma matsutake</i> (S. Ito & S. Imai) Singer ハラタケ目 キシメジ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

アカマツ林の代表的なキノコで外生菌根を作る。過去には発生場所が和歌山県内に広がっていたが、落葉や薪の利用が衰退した結果、土壌が富栄養化し、痩せた土壌を好む本種が減少したと考えられる。また、マツノザイセンチュウによるマツ枯れも本種に大きく影響を与え、発生量が極端に少なくなっている。



橋本市、紀の川市、田辺市、高野町、かつらぎ町、紀美野町、有田川町で発生が確認されている。

選定理由 傘は径8~20 cm。はじめ球形、のちにまんじゅう形~平らになる。表面は淡黄褐色~クリ褐色で繊維状の鱗片でおおわれる。縁部は幼菌時内側に巻く。ひだは湾生で白色。柄は上下同大か上部あるいは下部が細いものもある。肉は白色で特有の香りがある。

秋に、主としてアカマツ林に発生するが、ツガ、クロマツにも発生する。また、梅雨の頃にも発生する。

1940年頃には全国で1万2千トンの収穫が記録されているが、近年では100トン前後で推移している。多方面で人工栽培に向けた取り組みもされているが、まだ確立されていない。

執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献・情報**
- 1 池田良幸. 2013. 新版 北陸のきのこ図鑑. 396pp. 橋本確文堂, 金沢.
 - 2 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
 - 3 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京. 写真: 菌類専門部会撮影

ニセマツタケ <i>Tricholoma fulvocastaneum</i> Hongo ハラタケ目 キシメジ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

里山に見られるキノコであるが、和歌山県内では1箇所、田辺市でしか発生が確認されておらず、個体数も減少傾向にある。里山の薪炭林としての利用が衰退し、それに伴う雑木林の放置や森林遷移により生育適地が減少していると考えられる。



シイ・カシ・ウバメガシなどの広葉樹と外生菌根を作る。

選定理由 傘は径6~10 cm。はじめ球形、のちにまんじゅう形~平らになる。表面は帯黄土褐色~クリ褐色で繊維状、多少の鱗片を生じ、縁部は内側に巻く。ひだは湾生で白~乳白色。柄は下部が細くなる。肉はマツタケより多少柔らかく、匂いは微弱。

秋に、落葉性ブナ科や常緑のブナ科の林に発生する。県内ではウバメガシ林に発生することが多い。

田辺地域ではサマツと呼ばれ、食用キノコとして珍重されている。

執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献・情報**
- 1 池田良幸. 2013. 新版 北陸のきのこ図鑑. 396pp. 橋本確文堂, 金沢.
 - 2 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
 - 3 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京. 写真: 菌類専門部会撮影

モミタケ <i>Catathelasma ventricosum</i> (Peck) Singer ハラタケ目 オオモミタケ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-

生育条件であるモミ林の環境が著しく変化し、発生に適した場所が減少している。また、発生地も少なく個体数が減少しつつある。和歌山県内では田辺市、有田川町の2箇所のモミ林で確認しているが、それ以外のモミ林では確認できていない。



選定理由 傘は径8~20 cmで大型。はじめ半球状で縁部が深く内側に巻き、白色の被膜がある。のちに平らに開き、縁部は反り返る。表面は平滑で湿時粘性があり、灰白色のち灰褐色。柄は太く充実、下方で急に細まり、つばは二重になっている。

夏から秋に、モミ、エゾマツ、アカマツなどの針葉樹の林地に群生、時に菌輪を描く。

執筆者 (菌類専門部会)

**参考文献
・情報**

- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
- 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 3 工藤伸一. 2009. 東北きのこ図鑑. 269pp. 家の光協会, 東京.

オソムキタケ <i>Sarcomyxa serotina</i> (Pers.) V. Papp ハラタケ目 ガマノホタケ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-

生育適地の悪化や伐採によるブナ林の減少により、発生数が減少している。この状況が続けば、絶滅の危機が増大する可能性がある。

田辺市で発生が確認されている。

選定理由 子実体は側生する。傘は肝臓形~扇形、縁が内屈し、径3~8 cm、厚さは最大で1.5 cm。傘表面は全体としてオリーブ褐色~暗褐色、紫白色~暗紫色、微細毛で覆われ、下層にゼラチン層があるが、やや剥がれにくい。ひだは直生もしくはやや垂生し、密で、白色~橙白色。柄は短い太く、中実、淡黄色~橙色だが、表面にはオリーブ褐色~黄褐色または灰緑色~暗緑色の細鱗片、基部付近には白くて短い綿毛がある。

秋から初冬にかけて、ブナの朽木に、ムキタケより少し遅れて群生~重生する。

ムキタケとされていたものが、2014年にムキタケとオソムキタケに分類された。

執筆者 (菌類専門部会)

**参考文献
・情報**

- 1 斎藤輝明・殿内暁夫・原田幸雄. 2014. ムキタケ *Sarcomyxa edulis* comb. nov. とオソムキタケ (新称) *S. serotina* の生物学的特徴と分子系統解析. 日本菌学会会報, 55 (2): 19-28.

ムキタケ <i>Sarcomyxa edulis</i> (Y. C. Dai, Niemelä & G. F. Qin) T. Saito, A. Tonouchi & Y. Harada ハラタケ目 ガマノホタケ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-

生育適地の悪化や伐採によるブナ林の減少により、発生数が減少している。この状況が続けば、絶滅の危機が増大する可能性がある。

田辺市で発生が確認されている。

選定理由 子実体は側生する。傘は肝臓形から扇形、径3~11 cm、厚さ最大で1.5 cm。傘表面は灰黄色~オリーブ褐色、明褐色~褐色、微細毛で覆われ、下層にゼラチン層があるため剥がれ易い。ひだは直生し、密で、白色~橙灰色。柄は短い太く、中実、黄白色~黄橙色で表面には白色~浅橙色の短い綿毛を帯びる。

秋から初冬にかけて、ブナの朽ち木にオソムキタケより少し早く群生~重生する。

選定理由 ムキタケとされていたものが、2014年にムキタケとオソムキタケに分類された。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 斎藤輝明・殿内暁夫・原田幸雄. 2014. ムキタケ *Sarcomyxa edulis* comb. nov. とオソムキタケ (新称) *S. serotina* の生物学的特徴と分子系統解析. 日本菌学会会報, 55 (2) : 19-28.

ウスキブナノミタケ *Mycena luteopallens* Peck ハラタケ目 クヌギタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

ニホンジカによる植物の食害やササ類の枯死によりブナ林内の乾燥化が進み、生育適地の悪化によって発生が減少しつつある。

田辺市、有田川町、日高川町で発生が確認されている。

選定理由

傘は径5~7 mm。はじめ卵形や円錐形で、のちに幅広い円錐形、釣鐘形からまんじゅう形または平らとなる。色は黄色から淡黄色、のちに退色して淡黄土色から白色となる。ひだは直生から垂生状、やや疎で淡黄土色。柄は長さ5~7 cm、太さ1 mm程度で、中空。基部は黄白色で根状に伸び淡黄色の長軟毛をつける。

秋に、埋もれたブナの堅果上に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

シロテングタケ *Amanita neo-ovoidea* Hongo ハラタケ目 テングタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

発生地が限られており、その上、人的干渉の減少により里山の荒廃が進行し、生育適地の悪化が進んでいる。

和歌山市で発生が確認されている。

選定理由

傘は径7~10 cm。はじめ半球形、のちにまんじゅう形から平らに開き、さらに中央部がやや窪む。表面は白色で粉質物におおわれ、淡黄土色の大きなつばの破片が残存し、縁部にしばしばつばの残片が垂れ下がる。ひだは離生し白色から淡クリーム色で密。柄は長さ11~13 cm、太さ12~15 mmになり、根元はこん棒状または紡錘状で白色。

夏から秋に、アラカシ、ツブラジイなどのブナ科の樹下に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

菌類

ナメコ *Pholiota microspora* (Berk.) Sacc. ハラタケ目 モエギタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

和歌山県内では標高の高い一部の地域でしか生育していない。

発生地ではブナ林内の乾燥化や伐採による衰退が進み、生育環境が明らかに悪化しつつある。

田辺市で発生が確認されている。

傘は径3~8 cm。はじめ半球形~やや円錐形、のちにまんじゅう形からほとんど平らに開く。表面は

著しい粘液で厚くおおわれ、中央部は明るい褐色、周辺部は黄褐色。ひだは柄に直生し密、広幅、はじめゼラチン質の薄い皮膜におおわれている。柄は長さ2.5~8 cm、太さ3~13 mm、上下ほぼ同幅、上部にゼラチン様の隆起帯として認められるつばをもつ。つばより上部はほぼ白色、下部は淡黄色~褐色で、傘と同様粘液におおわれる。

秋に、落葉広葉樹、おもにブナの倒木や切り株上に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
・情報 写真: 菌類専門部会撮影

クリフウセンタケ *Cortinarius claricolor* (Fr.) Fr. ハラタケ目 フウセンタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

広葉樹林、アカマツ林の放置や植生の遷移などにより、生育適地が減少している。

田辺市、高野町、かつらぎ町で発生が確認されている。

傘は径4~8 cm。まんじゅう形からやや中高の平らに開き、表面は帯黄土橙色、中央部は帯褐色、周辺には白色絹糸状の被膜の破片を付着するが消失しやすい。ひだは直生または上生して密、幅3~4 mm、類白色のち粘土色からニッケイ褐色となる。柄は長さ6~10 cm、太さ7~11 mm、上下同大または下方に向かってやや細まり、白色のち多少粘土色をおびる。傘が開いたのちに綿毛状のつばが柄の上部に付着する。

秋に、クヌギ・コナラ林、アカマツ林などの地上に群生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
・情報 写真: 菌類専門部会撮影

アケボノアワタケ *Harrya chromipes* (Frost) Halling, Nuhn, Osmundson & Manfr. Binder **イグチ目 イグチ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

森林の荒廃により、本種の生育に適した場所が減少し、本種の発生数も減少している。紀の川市、和歌山市、田辺市、高野町、かつらぎ町、有田川町、日高川町、古座川町、那智勝浦町で発生が確認されている。

傘は径 4.5~6 cm。まんじゅう形~ほぼ平らになり、表面は帯緑色で中央は暗色、湿るとやや粘性を帯びる。管孔は上生~ほぼ離生で淡紅色。柄は淡黄色で特に根元付近は鮮やかな黄色を呈し、上に向かってやや細くなる。

夏から秋に、アカマツ、モミなどの針葉樹林やコナラ、ブナなどの広葉樹林の地上に発生する。

ただし、本種とされているものには複数の種が含まれていることが指摘されている。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報

- 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
- 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 3 工藤伸一. 2017. 青森県産きのこ図鑑. 535pp. アクセス 21 出版, 青森.

アヤメイグチ *Boletellus chrysenteroides* (Snell) Snell **イグチ目 イグチ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

発生地が限定されており、生育条件であるコナラ、シイ、カシなどの広葉樹林の放置により環境が著しく変化し、生育適地が減少している。生育条件の変化によっては絶滅危惧種のカテゴリーが変わる可能性がある。

高野町、かつらぎ町、有田川町で確認されている。

傘は径 3.5~7 cm。まんじゅう形~ほぼ平らで、表面は褐色~暗褐色または暗褐紫色でビロード状、不規則にひび割れる。管孔は、はじめ直生、のちに柄の周囲で陥没しほぼ離生状となりレモン色で、のちに帯オリーブ色となる。触れると速やかに青変する。柄はしばしば一方に曲がり、上部が黄色で下に向かって暗紅色~暗褐色になる。

夏から初秋に、ブナ科樹下の地上の腐植土または腐朽の進んだ材上に単生する。

外観的に酷似したものが数種あることが指摘されている。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報

- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 - 3 工藤伸一. 2017. 青森県産きのこ図鑑. 535pp. アクセス 21 出版, 青森.
- 写真: 菌類専門部会撮影

シヨウロ	<i>Rhizopogon rozeolus</i> (Corda) Th. Fr.	イグチ目	シヨウロ科
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012
			-
			国
			-

和歌山県内の発生確認は和歌山市、岩出市、海南市、美浜町、上富田町の5箇所である。また、生育地であるマツ林の放置や、マツノザイセンチュウの被害によるマツ林の減少などにより、本種の発生数が減少している。今後も生育適地が減少していくと考えられる。

選定理由 子実体は径1.5~3 cmで地中性、ときに半地中性。殻皮は薄く、白色~淡紫褐色であるが、地表に出ると黄褐色~赤色をおび、こすつたり、傷つけたりすると淡赤色に変わる。

秋から次年の春にかけて、海岸や庭園などのマツの樹下に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
写真: 菌類専門部会撮影

アカモミタケ	<i>Lactarius laeticolor</i> (S. Imai) Imazeki & Hongo	ベニタケ目	ベニタケ科
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012
			-
			国
			-

モミ林に特有のキノコであり、伐採によるモミ林の減少により発生数も減少している。高野町、有田川町で発生が確認されている。

選定理由 傘は径5~15 cm。まんじゅう形から開いてややじょうご状になる。色は淡橙黄色でやや不明瞭な環紋がある。ひだは直生または垂生し密で、傘より濃色。柄は長さ3~10 cm、太さ8~17 mmで中空、傘と同色、通常大小のクレーター状の浅いくぼみがあり、その内側は濃色。傷つけると橙朱色の乳液を多量に分泌する。

夏から秋、特に秋に、モミの樹下に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

トキイロラッパタケ	<i>Cantharellus luteocomus</i> (Fr.) Fr.	アンズタケ目	アンズタケ科
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012
			-
			国
			-

マツ枯れや伐採によるマツ林の減少をはじめ、マツと広葉樹による腐植質の堆積などにより、生育に適した場所が減少し、発生数も減少している。

選定理由 紀の川市、かつらぎ町、高野町、有田川町で発生が確認されている。

傘は径1~3 cm。淡いバラ色から朱橙色、時には淡黄から白色のものもある。柄は傘と同色で中空。子実層はしわ状で平滑。乾燥するとバターの香りがする。

秋に、マツ林内の地上に点々と群生~リング状に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

コウタケ *Sarcodon aspratus* (Berk.) S. Ito **イボタケ目** **マツバハリタケ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

発生地が田辺市、かつらぎ町、日高川町の3箇所に局限されており、クヌギ・コナラなどの広葉樹林、アカマツ林の放置や植生の遷移などにより、生育に適した場所が減少し、本種の発生も減少している。

傘は径10~20 cmに達する。アサガオの花のように開いたろうと形、肉質。傘の中央は深くくぼみ、穴は根元まで達する。表面には粗大で強くそり返った角状の鱗片が密生する。
選定理由 若いときは全体が桃色を帯びた淡褐色であるが、しだいに紅褐色から黒褐色になる。針状の下面は長さ1 cmあまり、柄の下の方まで短い針状のトゲがある。柄は長さ3~6 cm、太さ1~2 cm。

秋に、広葉樹林内の地上に列をつくって群生する。

日本固有種で、乾くと強い香りを放ち食用として珍重される。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄, 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 315pp. 保育社, 大阪.

クロカワ *Boletopsis grisea* (Peck) Bondartsev & Singer **イボタケ目** **マツバハリタケ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)
--------	------------	----	------	---	---	-----------

マツ林の放置やマツノザイセンチュウの被害によるマツ林の減少、植生の遷移などにより生育に適した場所が減少している。

田辺市、高野町で発生が確認されている。

傘は径5~20 cm。ほぼ円形、はじめ丸山形でのち扁平に開き、やがてそり返る。上面ははじめ灰白色、しだいにねずみ色から黒くなり、少し赤紫色をおびることがある。微細な毛をおびて、なめし皮状の触感がある。肉は厚く、1 cm以上。子実層托は管口状、孔口は初め円形で小さいがしだいに大きくなり、形もくずれ、深さ1~2 mm。柄は円柱状で、長さ2~10 cm、太さ1~2.5 cm、堅く、充実。表面は傘と同色。

秋に針葉樹林、特にマツ林の地上に群生する。

味はやや苦いが各地で好んで食用にされている。和歌山ではウシビタイと呼ばれている。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄, 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 315pp. 保育社, 大阪.

ブクリョウ *Wolfiporia extensa* (Perck) Ginns **タマチョレイタケ目** **ツガサルノコシカケ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

マツの根を囲うように菌核をつくるが、子実体の発生は極めてまれである。マツ林の減少により、本種の発生も減少している。

岩出市、田辺市、有田川町で菌核の発生が確認されている。

子実体は背着性、管孔面は汚白色から桃色を帯びた淡褐色。孔口は多角形からやや乱れ、マツ類などの針葉樹の枯木上に形成される。菌核はマツの根周辺に形成し、大きさはサツマイモ大から人頭大で、表面は灰褐色でシワを帯びる。内部は類白色で乾けばかたく砕けやすくなる。

菌核はごく偶然にみつかるとは、子実体を確認できる機会がほとんど無い。

菌核は、茯苓と呼ばれ漢方薬として重用される。

執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献
・情報
- 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 315pp. 保育社, 大阪.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

クモタケ *Purpureocillium atypicola* (Yasuda) Spatafora, Hywel-Jones & Luangsa-ard ニクザキン目 オフィオコルジケプス科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

宿主はキシノウエトタテグモに限定されており、宿主の個体数が減少傾向にあるため、発生数が減少している。今後、宿主のさらなる減少により、絶滅の危機が増大する可能性がある。

和歌山市、海南市で発生が確認されている。

選定理由 アナモルフ子実体は高さ 2~4 cm 程度。こん棒状で、上部に淡い紫色の粉状の分生子を形成する。石垣や土の切通しなどといった限られた場所に生息するキシノウエトタテグモに寄生する。



執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献
・情報
- 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 写真: 菌類専門部会撮影

フユヤマタケ *Hygrophorus hypothejus* (Fr.:Fr.) Fr. f. *pinetorum* (Hongo) Hongo ハラタケ目 ヌメリガサ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

マツが若く、林床の腐植質の少ない所が生育適地である。近年、マツ枯れや植生の遷移により、マツ林が減少するとともに発生適地が限られている。

有田川町で発生が確認されている。

選定理由 傘は径 1~3 cm。色はオリーブ色、のちに黄、橙、赤色を帯びる。粘性がある柄は長さは 3~4 cm、太さ 2~4 mm。晩秋から初冬にかけて、マツ林内に群生する。本種はシモフリヌメリガサの小型品種とされている。



執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献
・情報
- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑(Ⅰ). 325pp. 保育社, 大阪.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 写真: 菌類専門部会撮影

アオイヌシメジ *Clitocybe odora* (Bull.) P. Kumm. ハラタケ目 キシメジ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生地がかつらぎ町、高野町の 2 箇所に局限されている。里山の広葉樹林の放置などにより生育に適した場所が減少している。

傘は径 3~8 cm。まんじゅう形から中高の平らとなり、ついには多少くぼむことがある。表面は平滑、灰緑~淡青緑色、縁部は幼時内側に巻く。ひだは直生~垂生。密またはやや疎。白色のち淡黄色または淡緑色を帯びる。柄は長さ 3~8 cm、太さ 4~6 mm、淡緑色、繊維状、基部はしばしば湾曲し、白色の綿毛におおわれる。さくら餅のような芳香がある。

秋に、広葉樹林内の地上に単生または少数が群生する。

執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献
・情報
- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑(Ⅰ). 325pp. 保育社, 大阪.

ドクササコ *Paralepistopsis acromelalga* (Ichimura) Vizzini ハラタケ目 キシメジ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生地が限定されており、和歌山県内では高野町、紀美野町の2箇所では確認されていない。また、発生数も著しく少ない。生育適地がタケ藪、ササ藪などで、容易に放棄地になりうる場所のため、林床の環境変化により生育に適した場所が失われていると考えられる。



傘は径5~10 cm。中央が窪んだまんじゅう形、後にじょうご形となり、縁部は内側に巻き込む。表面は橙褐色~黄赤褐色で粘性はない。ひだは長く垂生し淡黄白色~淡黄褐色。柄は繊維質で中空、傘とほぼ同色、上部は白色、基部は膨らむものが多い。

秋から初冬に、タケ藪、ササ藪、雑木林、ときにスギ林などの腐葉土上に群生または束生する。

国内では日本海側に分布の偏りがみられ、太平洋側の県内での発生は地理的にみても特異的と考えられる。最近まで日本固有種とされていたが、韓国からも報告があるという。

有毒種で摂食後、数日から1週間を経たのちに、手足の末端などが激痛を発症し、1ヶ月ほど症状が続くことが知られている。

執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 池田良幸. 2013. 新版 北陸のきのこ図鑑. 396pp. 橋本確文堂, 金沢.
 - 2 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
 - 3 幼菌の会. 2001. きのこ図鑑. 335pp. 家の光協会, 東京.
- 写真: 菌類専門部会撮影

キヒダマツシメジ *Tricholoma fulvum* (DC.) Bigerd & H. Guill. ハラタケ目 キシメジ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

生育地が局限されており、和歌山県内では高野町、すさみ町の2箇所では発生が確認されていない。クヌギ・コナラなどの里山の広葉樹林の放置などにより生育に適した場所が減少している。



傘は径3~8 cm。はじめ丸みのある円錐形~まんじゅう形、後に開いて中高平らとなり、ついには中央部がややくぼむ。表面は湿っているとき粘性があり、平滑、クリ褐色。ひだは深く湾入し、淡黄色、幅2~9 mm、やや密。柄は長さ2.5~6 cm、太さ6~20 mm、上下同大または中ほどが紡錘形にふくらみ、やや繊維状、上部は淡黄色、下部は傘と同色。

秋に、広葉樹林内に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
- 写真: 菌類専門部会撮影

シロツルタケ *Amanita vaginata* (Bull.) Lam. f. *alba* (Sacc.) Romagn. **ハラタケ目** **テングタケ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

和歌山県内ではかつらぎ町、日高川町の2箇所でしか発生が確認されていない。森林環境の変化や雑木林の放置により生育に適した環境が減少している。

傘は径5~7 cm。はじめ釣鐘形からまんじゅう形になり、更に平らになる。表面は白色で中央部は淡黄色を呈することもあり、周辺には放射状の溝線がある。ひだは離性し白色。柄は円柱状で基部にさや状のつばがある。上部につばを欠く。肉は白色。

選定理由 夏から秋に、マツをまじえたクヌギ・コナラ林内に単生または群生する。

形態的には全体が白色である以外はツルタケと同じで、品種として扱っているが、独立種とみなされることもある。

本種は食用とされているが、同属の致命的な毒きのこ、ドクツルタケやシロタマゴテングタケに酷似しているので注意を要する。

執筆者 (菌類専門部会)

**参考文献
・情報**

- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
- 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 3 幼菌の会. 2001. きのこ図鑑. 335pp. 家の光協会, 東京.

キタマゴタケ *Amanita kitamagotake* N. Endo & A. Yamada **ハラタケ目** **テングタケ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

和歌山県内では岩出市の1箇所でしか発生が確認されていない。シイ、カシやマツなどが混生する雑木林の伐採や放置などにより生育に適した場所が減少している。

傘は径5~10 cm。橙黄色~黄土色で縁に条線がある。中~大型でタマゴタケに形態が似ているが、全体的に色が異なる。

選定理由

柄は黄色の地に橙色または帯褐色のだんだら模様を有する。

夏から秋に、針葉樹や広葉樹下の地上に発生する。

外形はタマゴタケとほとんど同様であることから、最近までタマゴタケの亜種とみなされてきた。

執筆者 (菌類専門部会)

**参考文献
・情報**

- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
- 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

ニオイドクツルタケ *Amanita oberwinkleriana* Zhu. L. Yang & Yoshim. Doi **ハラタケ目** **テングタケ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

和歌山県内では岩出市の1箇所でしか発生が確認されていない。生育場所である雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少している。

傘は径6~11 cm。はじめ釣鐘形、のちに中高の平らになる。表面は白色で中央はわずかに淡黄色を帯び、水酸化カリウム溶液で黄変しない。ひだは離生し白色。柄は円柱状で膜質のつばがあり、目立つささくれがある。基部は袋状のつばがあり、肉は白色で特有の塩素臭がある。

選定理由

夏から秋、主として夏に、シイやコナラの雑木林の樹下に単生する。

近縁種は有毒のものが多く、本種も有毒の可能性が高い。

執筆者 (菌類専門部会)

**参考文献
・情報**

- 1 青木 実・日本きのこ同好会. 2008. 日本きのこ図版 第二巻. 740pp. 日本きのこ同好会2, 神戸.

コトヒラシロテングタケ *Amanita kotohiraensis* Nagas. & Mitani ハラタケ目 テングタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少傾向にあり、本種の発生数も減少している。

紀の川市、和歌山市、かつらぎ町、有田川町で発生が確認されている。

傘は径6~15 cm。はじめ釣鐘形、のちに中高の平らになる。脱落しやすい圧着された白色のカサブタ状の外被膜の名残が散在し、湿時多少粘性を帯びる。表面は白色。ひだは離性し淡黄色。柄は円柱状で基部がカブ状に膨らむ。上部に脱落しやすいつばがある。肉は白色で特有の塩素臭がある。

夏から秋、主として夏に雑木林のクヌギ、コナラ、コジイなどの樹下に発生する。

食毒不明であるが近縁種に有毒のものが多く、本種も有毒の可能性が高い。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献
・情報

- 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

ヒョウモンウラベニガサ *Pluteus pantherinus* Courtec. & M. Uchida ハラタケ目 ウラベニガサ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

広葉樹林の腐朽木に発生するウラベニガサ属の中では発生数が極めて少ない。

和歌山市、日高川町で発生が確認されている。

傘は径5~6 cm。黄土色から暗褐色の地に大小の白い斑紋が多数点在し、ヒョウ紋が見られる。ひだは離性し密で、はじめ白色からのちに肉色となる。柄は淡黄色で繊維状、絹状のつやがあり、基部はやや膨らむ。

夏から秋に、広葉樹林の腐朽が進んだ倒木や切り株上、放置されたシイタケのほだ木に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献
・情報

- 1 本郷次雄 (監). 1994. きのこ. 383pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 3 工藤伸一. 2017. 青森県産きのこ図鑑. 535pp. アクセス21出版, 青森.
写真: 菌類専門部会撮影

マントカラカサタケ *Macrolepiota detersa* Z. W. Ge, Zhu L, Yang & Vellinga ハラタケ目 ハラタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

和歌山県内での発生の確認は和歌山市、岩出市の2箇所に限られている。雑木林の放置や森林の遷移により生育地が少なくなっている。

傘は径8~20 cm。はじめ球形~卵型、のちに中高の平らに開く。表面は褐色~灰褐色で傘が開くにしがたって亀裂ができ、著しい鱗片におおわれ、地肌は白色。ひだは白色で密、離生する。柄は長さ15~30 cm、太さ1.2~2 cm、中空で基部は著しくふくらみ、表面は横ならびの小鱗片におおわれている。つばは大きくて垂れ下がりマント状である。



夏から秋に、針葉樹や広葉樹の林内、タケ林内の地上または草地に単生あるいは散生する。

執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
・情報 写真: 菌類専門部会撮影

スジチャダイゴケ *Cyathus striatus* (Huds.) Willd. ハラタケ目 ハラタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生の確認例が極めて少ない。有機質の多い地上に発生するが、放置された里山林では腐植質の過度の堆積により生育適地が限定されている。

田辺市で発生が確認されている。

子実体は径5~8 mm、高さ5~8 mmほどの倒円錐形で、基部に小短柄のあるコップ形をしている。外皮は褐色から暗褐色の粗毛が密生する。成熟すると頂口が広がり粗毛は脱落し赤褐色から黒褐色となる。内側には上部に30本ほどの縦の条溝がある。中にはレンズ型で径1.5 mmほどの小塊粒がある。

夏から秋に、有機質の多い地上や朽木に群生する。

執筆者 (菌類専門部会)

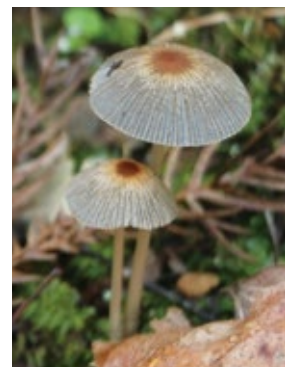
- 参考文献 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
・情報 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

ヒメヒガサヒトヨタケ *Parasola plicatilis* (Curtis) Redhead, Vilgalys & Hopple ハラタケ目 ナヨタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

和歌山県内では和歌山市と高野町の2箇所でしか発生が確認されていない。里山林や公園林の放置などで生育適地が減少している。また発生数も少ない。

傘は径5~10 mm。はじめは卵形のちほとんど扁平に開く。中央部は肉桂色。ひだは疎ではじめ灰色で、のちに灰黒色。液化はしないが薄い紙のようになる。柄は長さ4~7 cm、太さ2mm以下、白色。春から秋に、芝生、道端に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
・情報 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

カワリコシワツバタケ *Psilocybe merdaria* (Fr.) Ricken ハラタケ目 モエギタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

和歌山県内では和歌山市の1箇所が発生して以来30年程度経過するが、再発見されていない。生育適地の消滅や環境変化が考えられる。

選定理由

傘は径2.5~5 cm。円錐状釣鐘形、表面は赤褐色乾けば黄土色で多少粘性がある。ひだは直生で柴褐色~黒色。柄に膜質のつばがあり、上部は白色、下部は黄褐色~赤褐色。つばより下は繊維状のささくれがある。

春から秋に腐木や植物の遺骸、腐葉土などの肥沃な場所から発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
写真: 菌類専門部会撮影

ムレオオフウセンタケ *Cortinarius praestans* (Cordier) Gillet ハラタケ目 フウセンタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生地であるコナラを交える落葉広葉樹林が常緑樹林へと遷移することにより、生育適地が限られ、本種の発生もそれに伴って減少していく状況にある。

海南市、かつらぎ町で発生が確認されている。

選定理由

傘は径7~20 cm。まんじゅう形から平らに開くが、縁部は長く内側に巻いている。色は暗褐色、灰褐色、茶褐色などで周辺部は紫色を帯び、粘性が著しい。ひだは直生または上生し密、ニッケイ色。柄は長さ10~20 cm、太さ3~6 cm、白色であるが下半部は淡紫色でほとんど白色の外被膜におおわれる。

秋に、コナラを交える落葉広葉樹林内に群生する。



執筆者 (菌類専門部会)

- 参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

オオワライタケ *Gymnopilus junonius* (Fr.) P. D. Orton ハラタケ目 所属科未確定

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

和歌山県内での発生確認は1箇所田辺市のみで限定されている。里山の広葉樹林の放置や伐採などにより生育に適した場所が減少している。

傘は径5~15 cm。半球状~まんじゅう形のちほとんど平らに開き、表面はこがね色~帯褐橙黄色で細かい繊維紋を表す。ひだは直生あるいはわずかに垂生し、はじめ帯黄色、のち明るいさび色となる。柄は長さ5~15 cm、太さ0.6~3 cm、根元はやや紡錘形となり、表面は傘より淡色で繊維状、上部に淡黄色膜質のつばがある。

選定理由

夏から秋に、コナラ、シイなどの広葉樹、まれに針葉樹の生木や枯れ木に多数束生し、ときに大きな株を作る。

有毒種で神経系統を異常に刺激して、中毒患者はしばしば意識が混濁し、幻覚を見ることがあるというが、致命的ではなく正常に回復する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.

ソライロタケ *Entoloma virescens* (Sacc.) E. Horak ex Courtec. **ハラタケ目** **イッポンシメジ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

いずれの発生地においても密度が低く、また里山林の荒廃が進んでいるため、発生数が減少している。
 岩出市、和歌山市、海南市において発生が確認されている。
 傘は径2~3.5 cm。はじめ円錐形、のちにまんじゅう形からほぼ平らになる。しばしば中央に乳頭状の突起がある。傘表面には細かい繊維状鱗片あり。ひだは上生からほぼ離生。柄は長さ4~7 cm、太さ3~4mm、上部は空色、下部は白から褐色。
 全体が空色の美しいキノコで、秋に林内の地上に単生または少数群生する。



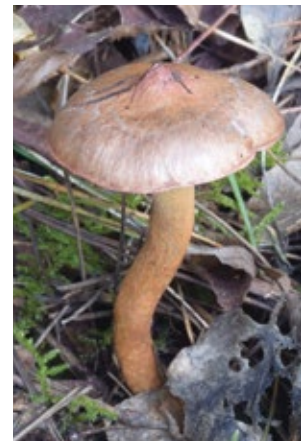
執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 写真: 菌類専門部会撮影

クギタケ *Chroogomphus rutilus* (Schaeff.) O. K. Mill. **イグチ目** **オウギタケ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

生育場所であるマツ林の植生遷移により、生育適地が減少している。
 田辺市、高野町、有田川町で発生が確認されている。
 傘は径1.5~6.5 cm。はじめ円錐形、のちにまんじゅう形となり、しばしば中央部が尖ったまたは丸みのある山形に突出している。表面は湿時粘性があり、光沢がある。はじめ粘土褐色のち帯赤褐色となる。ひだは垂生し少なく、淡褐色のちに暗赤褐色から黒褐色となる。柄は長さ3~8 cm、太さ0.5~2 cmで上下同大または基部が細まる。表面は繊維状、淡黄褐色、淡赤褐色または上部が紫褐色。つばは綿毛状で消失しやすい。
 夏から秋に、マツ林内の地上に単生または群生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 写真: 菌類専門部会撮影

アメリカウラベニイロガワリ *Boletus subvelutipes* Peck **イグチ目** **イグチ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

生育場所である雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少傾向にあり、本種の発生数も減少している。
 和歌山市、高野町で発生が確認されている。
 傘は径5~14 cm。表面はピロード状、赤褐色から暗褐色。管孔は黄色のち緑黄色。孔口は血のような赤色。どちらも傷つけると、濃い青色に変色する。柄は長さ5~14 cm、太さ1~1.5 cm。表面は黄色で、赤色の細かい点がおおう。

菌類

選定理由

夏から秋に、広葉樹林内の地上に発生する。

本種は北アメリカ東部にて初めて報告された種で、その後日本でも発生が確認された。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

- 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 幼菌の会. 2001. きのこ図鑑. 335pp. 家の光協会, 東京.

サザナミイグチ *Boletus subcinnamomeus* Hongo イグチ目 イグチ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

生育場所である雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少傾向にあり、発生数も減少している。

和歌山市、紀の川市、海南市、広川町で発生が確認されている。

傘は径7~13 cm。明るい褐色。柄は淡黄色で、表面は無毛平滑またはわずかに細かい粉状。肉は傷つけるとゆるやかに濃黄色になるが青変はしない。

夏から秋に、コナラ・クヌギ林の地上から発生する。



執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

- 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 東京.
 - 2 幼菌の会. 2001. きのこ図鑑. 335pp. 家の光協会, 東京.
- 写真：菌類専門部会撮影

ムラサキヤマドリタケ *Boletus violaceofuscus* W. F. Chiu イグチ目 イグチ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

近年、本種の生育適地であるシイ・カシ林の伐採などで発生数が減少している。

田辺市、九度山町、日高川町、古座川町で発生が確認されている。

傘は径5~10 cm。暗紫色を帯び、平滑無毛で湿時多少粘性を帯びる。成熟したものでは黄色、オリーブ色、褐色などの斑紋を生じる。管孔は、はじめ白色、のちに淡黄色から汚黄褐色となる。孔口は小型円形。柄は長さ7~9 cm、太さ1~1.5 cm、暗紫色を帯び、全体に白色の網目模様がある。

夏から秋に、シイ・カシ林内またはシイ・カシを交えたマツ林内にしばしば群生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

- 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 写真：菌類専門部会撮影

オオヤシャイグチ *Austroboletus subvirens* (Hongo) Wolfe イグチ目 イグチ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生数が減少している。

田辺市で発生が確認されている。

傘は径4~9 cm。表面はビロード状、湿れば多少粘性あり、オリーブ緑色、のちに黄土色。しばしば亀甲状にひび割れる。管孔は白色、後に赤みを帯びた紫褐色。柄は淡黄色の地にオリーブ緑色の網目がある。

夏から秋に、主にシイ・カシ林内の地上に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

セイタカイグチ *Aureoboletus russellii* (Frost) G. Wu & Zhu L. Yang イグチ目 イグチ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生数が減少している。

かつらぎ町で発生が確認されている。

傘は径4~10 cm。表面は湿れば粘性あり、うすい茶色から淡黄土色。管孔は淡黄色のちオリーブ褐色。柄は長さ8~16 cm、太さ1~2cm、赤茶色の地に淡色から白色の大きい網目状の隆起があり、粘性がある。

夏から秋に、コナラなどの樹下に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

ヌメリアシナガイグチ *Aureoboletus longicollis* (Ces.) N. K. Zeng & Ming Zhang イグチ目 イグチ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)
--------	-----------	----	------	---	---	-----------

和歌山県内で2017年に田辺市で初めて確認された。発育適地はシイ林内と推定される

傘は径3~9 cm。半球形からまんじゅう形、色は赤褐色で多くのしわがある。管孔は上生から湾生し、淡黄色のち暗オリーブ色、孔口も同色。柄は長さ9~23 cm、太さ6~12 mm、色は傘より淡色で縦条があり、柄の上部には白色の粘性膜質のつばがある。傘と柄は粘液におおわれている。

夏から秋に、シイ林内の地上にまれに発生する。

本種はアキノアシナガイグチの和名で呼ばれていたが、別種であることが判明し、和名が変更された。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

ヤシャイグチ <i>Austroboletus fusisporus</i> (Kawam. ex Imazeki & Hongo) Wolfe. イグチ目 イグチ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-

発生地に限られ発生量も極めて少ない。更に、生育適地のシイ・カシ林が伐採などで減少している。

和歌山市、海南市で発生が確認されている。

選定理由 傘は径 2.5~4 cm。まんじゅう形で時に中央部がやや突出する。表面に粘性があり、色は黄褐色からニッケイ色で多少鱗片状。管孔は白色のちに紅紫褐色。柄は細長く表面は白色から淡黄褐色で、褐色の細長く粗い網目がある。

夏から秋に、シイ・カシ林内の地上に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

トガサワラショウロ <i>Rhizopogon togasawariana</i> A. B. Mujic, K. Hosaka & J. W. Spatafora イグチ目 ショウロ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-

日本固有種のマツ科のトガサワラと共生していると推察されるが、トガサワラ自体が少なく、生育密度も低い。

田辺市で発生が確認されている。

選定理由 子実体は径 1.5 cm 程度で、表面は汚れた白色から灰褐色で、傷つけると赤く変色する。外皮は平滑だが、根状菌糸束をまとうことがある。梅雨時、トガサワラ樹下に発生する。

三重県と和歌山県で発見されている。2014 年に新種記載され、和歌山県では 2017 年に発見されている。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報 1 折原貴道. 2019. トガサワラショウロ *Rhizopogon togasawariana* の和歌山県における初記録. *Truffology*, 2 (1) : 18-19.

ルリハツタケ <i>Lactarius subindigo</i> Verbeken & E. Horak ベニタケ目 ベニタケ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-

シイ、コナラ、マツなどの林内の地上に発生するが、発生密度は低い。また、発生場所が 2、3 年で消滅してしまう傾向がみられる。

岩出市、和歌山市、海南市、紀美野町で発生が確認されている。

選定理由 傘は径 5~10 cm。表面は藍青色、濃色の環紋がある。ひだはやや密で藍青色、傷がつくと緑色に変化する。柄は傘とほぼ同色、濃色の浅いあばたがみられる。

夏から秋に、マツやブナ科などの林内に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献・情報 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 菌類専門部会撮影

カゴタケ <i>Ileodictyon gracile</i> Berk. スッポンタケ目 アカカゴタケ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生数が減少している。

岩出市で発生が確認されている。

選定理由

幼菌は径 2~4 cm。球形から扁球形、白色から淡い灰褐色。成熟すると裂開して白色の托枝が膨張し、広がると径 3~12 cm の中空丸かご形になる。カゴ目は類球形から多角形で腕の内側に粘液状で暗緑褐色のグレバが付き、甘い匂いを放つ。

梅雨時から晩秋に、広葉樹または針葉樹の林地地上に発生する。



執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報

- 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 - 2 幼菌の会. 2001. きのこ図鑑. 334pp. 家の光協会, 東京.
- 写真: 菌類専門部会撮影

アカイカタケ <i>Aseroe rubra</i> Labill. スッポンタケ目 アカカゴタケ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-

和歌山県内での発生確認は現在のところ紀の川市、有田川町の 2 箇所である。全国的に発生確認が極めて少ない。

選定理由

各種林地地上に発生する。幼菌は径 1.5~2.5 cm。球状~卵形、熟すと高さ 10 cm 程の柄を伸ばし、赤紅色の腕を 14~24 本伸ばす。腕はやがて放射状に広がり先細のひも状となる。グレバは柄の上部の皿状部に生じ、黒褐色粘液となり、強烈な悪臭を放つ。

夏から秋に、林内やタケ林、もみ殻上などに発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報

- 1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
- 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

イカタケ <i>Lysurus arachnoideus</i> (E. Fisch.) Trierv.-Per. & K. Hosaka スッポンタケ目 アカカゴタケ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-

和歌山県内での発生確認は有田川町の 1 箇所で発生地が局限されている。

選定理由

幼菌は径 1~1.5 cm。球形で白色。裂開して中から白い腕を 6~16 本直立に伸ばして、やがて放射状水平に広がる。その基部に粘液状で黒褐色のグレバがあり、強い腐肉臭を放つ。

初夏と秋の間に二度、わら、おがくずなどに群生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献・情報

- 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

ヒメスッポンタケ *Phallus tenuis* (E. Fisch.) Kuntze スッポンタケ目 スッポンタケ科

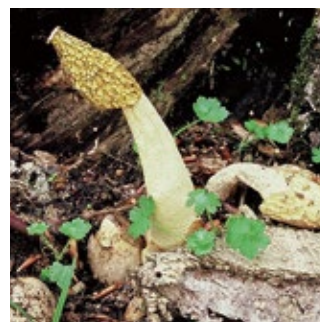
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

和歌山県内での発生確認は田辺市の1箇所で局限されている。
 幼菌は径1.5~2 cm。卵型で白色。熟すと裂開して柄を伸ばし、高さ7~10 cm。傘は長釣鐘形。鮮黄色で表面に網目状隆起、暗緑色の粘液化したグレバをつけ悪臭を放つ。頂孔は中空の柄に連なり、孔縁はドーナツ形、白色~黄色。柄は円筒形で中空、径4~5 mmで鮮黄色を呈する。

夏から秋に、林内の腐朽材に群生する。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献
 ・情報

1 本郷次雄・伊沢正名. 1994. 山溪フィールドブックス きのこ. 383pp. 山と溪谷社, 東京.
 写真: 菌類専門部会撮影

ミミブサタケ *Wynnea gigantea* Berk. & M. A. Curtis チャワンタケ目 ベニチャワンタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

極めてまれにしか発生を確認できない。発生環境が様々で、発生適地の条件が不明。
 紀の川市、岩出市、田辺市、有田川町において発生が確認されている。

子実体は高さ5~7 cm。共通の茎から生じる10~20個のうさぎの耳状の子囊盤よりなる。茎は短円柱形で高さ1~1.5 cm、太さ1~1.5 cm。下部は幾分細まり数本に枝分かれしてそれぞれの末端は塊状の菌核に連なる。子囊盤は高さ3~6 cm、幅1~2 cmで、鹿革色から琥珀色、のちに暗色となる。

春から秋に、林内の地上に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献
 ・情報

1 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.

アミガサタケ *Morchella esculenta* (L.) Pers. チャワンタケ目 アミガサタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

菌類

選定理由

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生適地が減少している。

紀美野町で発生が確認されている。

子実体の高さ5~12 cm。頭部は卵形から卵状円錐形で、灰褐色。表面には淡色の肋状の脈が多角形や不定形の網目を形成する。柄は円筒形で、白色から淡黄色。

春に、林内地上あるいは路傍に発生。

和歌山県内では、近縁種のトガリアミガサタケが多く見られ、本種の発生は少ない。

執筆者 (菌類専門部会)



参考文献
 ・情報

1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 写真: 菌類専門部会撮影

ウツロイモタケ *Hydnocystis japonica* (Kobayasi) Trappe チャワンタケ目 ピロネマキン科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

全国的にみても発生が少なく、和歌山県内でも発生確認は和歌山市の1箇所のみで生育地が局限されている。本種は腐生菌と推察されており、腐植物の分解が終了すると消滅すると考えられる。

選定理由

子実体は径1~1.5 cm。多少歪みのある偏球形の塊状で、淡黄褐色~肌色を呈す。皮状構造物におおわれ、異臭がある。内部は空洞。子実体層は汚白色で粉毛状。



秋から冬に、スギ林の林縁のやや裸地化した雑草地に散生する。半地下生でキノコの一部が地上に露出している。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献
・情報

- 1 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325pp. 保育社, 大阪.
 - 2 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
 - 3 佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀. 2016. 地下生菌識別図鑑. 143pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 写真: 菌類専門部会撮影

クルミタケ *Hydnotrya tulasnei* (Berk.) Berk. & Broome チャワンタケ目 フクロシトネタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生場所が少なく、かつ発生密度も低く、広葉樹の伐採により発生数が減少している。1997年に紀の川市で確認して以来、再確認はされていない。

選定理由

子嚢果は径3 cmまで。塊状、表面は赤褐色、外皮がやや粉状。内部は迷路状になって隙間があり、その表面に子実層がある。

春から夏に、広葉樹の樹下に発生する。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献
・情報

- 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀. 2016. 地下生菌識別図鑑. 143pp. 誠文堂新光社, 東京.

カエントケ *Trichoderma cornu-damae* (Pat.) Z. X. Zhu & W. Y. Zhuang イボタケ目 ボタンタケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。ナラ枯れ被害木の周辺で発生しやすいと言われている。

岩出市、和歌山市、田辺市で発生が確認されている。

選定理由

子座は高さ3~8 cm。円筒形に枝分かれして、ときに手の指のようになる。先端が丸いか尖る。朱色や橙色を帯びた赤色など。肉は白色。

主に夏、林内地上、特に森林のギャップによく発生する。



猛毒キノコであり、手で触れることも危険であり、注意喚起が必要である。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献
・情報

- 1 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 2011. 増補改訂版 日本のきのこ. 639pp. 山と溪谷社, 東京.
- 写真: 菌類専門部会撮影

ミナカタホコリ *Minakatella longifila* G. Lister **コホコリ目** **所属科未確定**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

和歌山県内では、南方熊楠が発見して以来、誰も見つけていない。全国的にも発見例が非常に少ない。子実体の高さ 2 mm 程度までと非常に小さい上に、発生密度がかなり低いため、発見されにくいことが考えられる。

田辺市で発生が確認されている。

子実体は単子嚢体型で密生し、しばしば累積するか擬着合子嚢体型になる。直径 2 mm 程度まで。ふつう柄がない。子嚢は直径 0.5 mm まで。子嚢壁は膜質で光沢がある。

夏から秋に、生木の樹皮に発生する。

1916 年に、南方熊楠が自宅庭の柿の樹皮上に本種をはじめて発見し、学名に献名された。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献 1 山本幸憲. 2021. 日本変形菌誌. 1135pp. 日本変形菌誌製作委員会, つくばみらい.
・情報

アオウツボホコリ *Arcyria glauca* Lister ex G. Lister **ケホコリ目** **ケホコリ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

本種は発生頻度が低い上に、発生密度も低い。また、主に広葉樹の朽ち木に発生するが、県内では、スギ、ヒノキによる人工林化が進み、広葉樹が数多く伐採された。こうした要因で本種の発生が減少してきたものと思われる。

選定理由 和歌山市、岩出市、紀の川市、田辺市、那智勝浦町で発生が確認されている。

子実体は単子嚢体型で群生または密生する。細毛体が伸びて高さ 6 mm までで、直径 1 mm まで。淡い青緑色で美しいが、退色して緑褐色や暗褐色になる。子嚢壁の上部は早くなくなり、下部のみ杯状体として残る。柄は淡緑色や灰褐色で、高さ 0.5 mm まで。

春から秋、特に夏に、主に広葉樹の朽ち木に発生する。

南方熊楠が、1906 年に田辺市で初めて発見した。

執筆者 (菌類専門部会)

参考文献 1 山本幸憲. 2021. 日本変形菌誌. 1135pp. 日本変形菌誌製作委員会, つくばみらい.
・情報 写真: 菌類専門部会撮影

